

■ 本文

蝶愛づる姫君の住みたまふかたはらに、按察使の大納言の御女、心にくく〔①〕なべてならぬさまに、親たちかしづきたまふこと限りなし。

この姫君ののたまふこと、「人々の、花、蝶やと〔②〕めづるこそ、〔③〕はかなくあやしけれ。人は、まことあり、本地たづねたるこそ、〔④〕心ばへをかしけれ」とて、烏毛虫の、心深きさましたるこそ〔⑤〕心にくけれ、とて、明け暮れは、耳はさみをして、手のうらにそへふせて、まぼりたまふ。

若き人々は、〔⑥〕おぢ惑ひければ、男の童の、ものおぢせず、いふかひなきを〔⑦〕召し寄せて、箱の虫どもを取らせ、名を問ひ聞き、いま新しきには名をつけて、〔⑧〕興じ〔⑨〕給ふ。

「人はすべて、つくろふところあるはわろし」とて、〔⑩〕眉さらに抜きたまはず、齒黒め、「さらにうるさし、きたなし」とて、つけたまはず。

(注) 按察使=地方行政を監督する官。心にくし=奥ゆかしい。本地=物事の本来の姿・本質。耳はさみ=額髪を耳にはさむこと。まぼる=じっと見つめる。いふかひなき=身分の低い、取るに足りない。齒黒め=お齒黒。齒を黒く染める当時の化粧。

■ 設問 (全22問)

- 傍線部〔①〕「なべてならぬ」を現代語訳せよ。
- 「この姫君ののたまふこと」の「のたまふ」を、敬語の種類を明らかにして現代語訳せよ。
- 傍線部〔②〕「めづる」の終止形を答え、その意味を記せ。
- 傍線部〔②〕を含む一文「人々の、花、蝶やとめづるこそ、はかなくあやしけれ」を、姫君の価値観がわかるように現代語訳せよ。
- 傍線部〔③〕「はかなくあやしけれ」について、次の問いに答えよ。
 - 「はかなく」の終止形(基本形)と活用の種類を答えよ。
 - この「けれ」が已然形になっているのはなぜか、文法的に説明せよ。
- 傍線部〔④〕「心ばへをかしけれ」を現代語訳せよ。
- 傍線部〔④〕「をかし」と傍線部の外にある「あやし(あやしけれ)」「わろし」は、いずれも物事に対する評価を表す形容詞である。このうち、姫君がプラスの評価(よいと思う気持ち)を込めて用いている語をすべて選び、記号で答えよ。

ア あやし イ をかし ウ 心にくし エ わろし
- 姫君が虫を集めさせ、毛虫を「心深きさましたる」と評価するのは、姫君のどのような考え方に基づくか。本文中の「まことあり、本地たづねたる」という語句を踏まえて、三十字程度で説明せよ。
- 傍線部〔⑤〕「心にくけれ」の終止形を答え、ここでの意味として最も適切なものを次から選べ。

ア 憎らしい イ 奥ゆかしく心ひかれる ウ おそろしい エ つまらない

10. 傍線部〔⑥〕「おぢ惑ひければ」について、(a)「おぢ」の終止形（基本形）を答え、(b) 全体を現代語訳せよ。
11. 傍線部〔⑦〕「召し寄せて」の「召し」は、誰の動作に対する敬語か。また敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）を答えよ。
12. 傍線部〔⑧〕「興じ」、傍線部〔⑨〕「給ふ」について、(a)「給ふ」の文法的な種類（敬語の種類）を答え、(b) 誰に対する敬意か答えよ。
13. 傍線部〔⑩〕「眉さらに抜きたまはず」を現代語訳せよ。なお「さらに……ず」の意味を踏まえること。
14. 姫君が「眉さらに抜きたまはず」「齒黒めつけたまはず」とあるのは、姫君が何を「つくろふところ（とりつくろい・人工的なかざり）」として嫌っているからか。簡潔に説明せよ。
15. 本文中で、姫君の世話をする「若き人々（侍女たち）」は虫に対してどのような反応を示したか。本文の語句を用いて答えよ。
16. 姫君が虫の世話をさせるために呼び寄せたのはどのような者か。本文中から十字以内で抜き出せ。
17. 「とめづるこそ……あやしけれ」「本地たづねたるこそ……をかしけれ」「心深きさましたるこそ心にくけれ」に共通して見られる古文の文法現象を何というか、名称を答えよ。
18. 本文の内容と合致するものを次から一つ選べ。
- ア 姫君は蝶を愛し、毛虫を気味悪がっていた。
- イ 姫君はお齒黒や眉づくりなどの化粧を、わざとらしいものとして嫌った。
- ウ 侍女たちは姫君と同じように、進んで毛虫の世話をした。
- エ 姫君は世間並みの、ごくありふれた様子の女性であった。
19. 『堤中納言物語』はどのような性格の作品か。最も適切なものを次から選べ。
- ア 一人の主人公の生涯を描いた長編物語 イ 複数の短編からなる物語集 ウ 和歌を中心とした歌物語 エ 作者の日々を記した日記文学
20. 「虫めづる姫君」のように、一つの作品の中に「蝶めづる姫君」という対照的な人物が冒頭に置かれている。作者がこの二人を対比的に描くことで、「虫めづる姫君」のどのような点を際立たせていると考えられるか。あなたの考えを一文で書け。
21. 次の古語の本文中での意味を答えよ。
- (a) かしづく
- (b) あやし
- (c) をかし
- (d) わろし
22. 姫君の人物像を、本文全体を踏まえて四十字程度でまとめよ。